

本校の初任者であるSS先生は、男子ソフトテニス部の顧問をしている。先日、彼と部活動の話をした。その際、そういえば、昔、ソフトテニス部の顧問をしていたときに、「部活動通信『かがやき』」なるものを出していたことを思い出した。

もう少し早く思い出せばよかった。そうすれば、少しは彼を助けることができたかもしれない。一瞬、そう思ったのだが、この2か月間は、とてもとてもそんな余裕はなかったであろうから、まあいいかということにした。

中体連の大会が終わり、これから新チームを軌道に乗せていく上で、役に立つかもしれないと判断し、「部活動通信『かがやき』」を彼に差し上げた。何よりも、SS先生がソフトテニスの勉強をしなければならない。

そういえばと、もう一つ思い出した。自分が部活動の顧問を引退して、余裕が生まれたのか、あるいは寂しくなったのかは忘れてしまったが、中学校の顧問の先生方のためにと、自分の経験を織り交ぜながら、定期的にブログに記事を書いていたことがあった。その内容は、まさしくSS先生のように、初めてソフトテニス部の顧問になった方には、ぴったりのものだった。

こちらは、どうして思い出さなかったのかと悔やまれた。4月にやるべきことや練習メニュー、5月のポイントと練習メニュー、大会前にやるべきことなど、顧問の先生の立場になって書かれてあった。本人は、この存在をすっかり忘れていた。こちらも今後のためにとSS先生に差し上げた。

まさか、今頃になって役に立つとは思ってもしなかった。何がどうなるかわからないものである。支部大会の1、2回戦で負けていた学校に転勤し、顧問となる。最初は、どうしたらいいものかと途方に暮れるものである。

とりあえず、1週間ほど様子を見る。そして、問題点を生徒に説明する。後は、前に進むだけである。その一つの手立てが部活動通信である。部員である生徒たちは、隅から隅まで熟読するようになる。テニスコートで説明したことの復習、ソフトテニスのセオリーや戦術、審判の仕方、各種大会の位置づけ、顧問としての思い、大会の結果、今後の予定など、内容は多岐にわたる。

雨の日のミーティングではテキストにもなる。生徒は、全員ファイルに綴じて、テニスコートが使えないときには必ず持ってきていた。毎日カバンに入れている生徒もいた。ミーティングでは、懸命にメモをとりながら話を聞いていた。授業もこのくらいやれば、だいぶ学力もつくのだと思うほどであった。

久しぶりに、懐かしく自分の部活動通信を読むこととなった。そこには、間違いなく熱く燃える顧問がいた。それも短期間で一気に勝とうとしている姿勢がうかがえた。具体的には、顧問となった1年目の秋の新人大会では、すでに本気で勝とうとしていた。そのためには、暑く熱い夏が重要である。同じことをやろうとしても、今ではできそうにもない。

SS先生が、部活動通信を出すかどうかはわからない。だが、彼もまた熱い人である。いずれにせよ、生徒に熱く語りかけることだろう。彼のおかげで、熱く燃えていた自分に懐かしく会うことができた。問題は、自分がこれから何に熱く燃えるかである。